

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2012年10月22日

派遣者氏名(専門分野)	金相美 (美学・文芸学)
-------------	--------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	アメリカのデザイン教育の歴史的研究：ニュー・バウハウスの移設過程を中心に
-------	--------------------------------------

派遣期間

2012年7月26日～2012年9月24日

訪問研究機関	国	都市	訪問機関	受入研究者
	米国	シカゴ	イリノイ大学シカゴ校	Prof. Victor Margolin

派遣先で実施した研究内容

派遣先であるイリノイ大学シカゴ校は特別コレクションを持っており、とくにデザインコレクション、中でもニュー・バウハウスの設立と運営、そしてニュー・バウハウスの校長だった、モホリ＝ナギに関わるコレクション資料が充実している。派遣者はイリノイ大学シカゴ校の図書館を訪問し、デザインコレクションの調査を行った。以下は調査を行った、コレクションの概要である。

Collection Title: Institute of Design Collection

Dates: 1927/1970

Subjects: Chicago School of Design—Sources

Illinois Institute of Technology. Institute of Design—Sources

Institute of Design (Chicago, Ill.)—Sources

New Bauhaus—Sources

Chicago Design History

Index Terms : Series I - Administrative Files

Series II - School records

Series III - Institute of Design - Faculty and Students

Series IV - Advisors, Visitors and Lecturers

Series V - Exhibition material

Series VI - Publications about the Institute of Design

Series VII - Photographs

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

研究の当初の目的は、バウハウスを継承したとされる、ニュー・バウハウスの軌跡をたどることによってデザイン教育におけるバウハウスとニュー・バウハウスの違いとその原因を明らかにすることであった。それによって教育思想やそのシステムを移植する際の注意点、さらにはデザイン教育の未来を展望したいと考えた。

バウハウス (Bauhaus) は 1919 年、ドイツのヴァイマールに設立された、総合的造形教育機関である。その教育理念は、絵画、彫刻、工芸などの諸芸術と職人的手工作のような製作活動を結集し、建築のもとに芸術と技術の再統一を図るところにあった。開校からわずか 14 年後にナチスの弾圧によって閉校されてしまうが、モダンデザインの思想と方法を確立し、造形教育・運動のひとつの頂点を形作ったものとして高く評価されている。その理念はアメリカのシカゴに設立された、ニュー・バウハウス (The New Bauhaus Chicago) において継承されていた。

ニュー・バウハウスはその名称からもわかるように、ドイツのバウハウスの流れをくむ学校として知られている。だが、その設立経緯や運営をめぐる関係者たちの見解には大きな違いがあった。こうした見解の違いは、今回の調査、つまりニュー・バウハウスの設立に関する資料や、校長のモホリ＝ナギや関係者たちの書簡などを調べることによって確認できた。イリノイ大学シカゴ校の名誉教授で、派遣者の受入研究者である、ヴィクター・マーゴリン (Victor Margolin) 氏は著書において、「産業 (industry) に対するモホリ＝ナギの態度はデザイナーが製品を制御するというヨーロッパの前衛的考えによるものである。モホリ＝ナギのデザイン思想における前衛的刺激を知ることは、なぜ彼がアメリカのコンサルタント・デザイナーたちの実用的な (pragmatic) マネージメント指向の方法を学生のための手本にしなかったかを、とくに彼がバウハウスを経験したためデザインと産業との関わりに対しアメリカのそれとは非常に違ったやり方を持っていたことを、説明してくれる」と語っている。これはモホリ＝ナギがニュー・バウハウスの校長に就任し行った教育について語ったものである。

革新的なデザイン教育の象徴であったバウハウスではあるが、その教育思想や方針を、アメリカという異国にそのまま移植するというモホリ＝ナギの方法は正しかっただろうか。調査を終えたいま、派遣者は不適切な、というより惜しい方法であったと考える。なぜなら、バウハウスやモホリ＝ナギが理想としていた、芸術と技術の再統一、そして総合的な造形活動をより全方位にわたって行ったのは、マーゴリン氏のいう、当時のアメリカのコンサルタント・デザイナーたちだったし、また彼らを、以後デザイン界に登場し主流となったアートディレクターという職業の先駆けとも言えるからである。つまり、ヨーロッパの前衛的考えのもとで生まれたバウハウスを直接移植するのではなく、融合を試みたのなら、さらなる可能性を生み出すことができたのではないかという結論に至った。

派遣後の研究発表の予定

意匠学会での発表を準備中。